

リハビリテーション科

リハビリテーション科：選択研修

指導医：リハビリテーション科医長およびリハビリテーション科に関連する各科医長（整形外科、脳神経外科、脳神経内科、呼吸器外科、呼吸器内科、循環器内科、心臓血管外科、小児科、がん診療科、耳鼻咽喉科）

上級医：臨床経験が8年以上あるが指導医養成講習会未受講の各診療科医師、および臨床経験7年以下のリハビリテーションに関連する各診療科医師

指導者：リハビリテーション科士長、副士長、主任

●一般目標（GIO）

疾病、外傷、加齢などによって生じる障害をもつ患者に対して、予防、診断、治療を行い、機能回復ならびに活動性の向上や社会参加に向けてのリハビリテーション医療を理解し、適切な処方を行うことができる能力を養うこと。

●行動目標（SBOs）

- ・ 急性期、慢性期の病院におけるリハビリテーション、地域におけるリハビリテーション、福祉・介護保険などが提供するサービスについて広い見識を身に付ける。
- ・ リハビリテーション診断を行う上で必要な各種画像検査・電気生理学的検査・病理診断・超音波検査などの評価・施行できる。
- ・ 骨関節疾患・神経疾患・内部障害など、頻度の多い疾患についてリハビリテーションの実際を経験する。
- ・ 運動障害や高次脳機能障害だけでなく、嚥下障害・心肺機能障害・排泄障害の評価といった関連領域の評価ができる。
- ・ リハビリテーション科と関連のある脳神経内科、脳神経外科、整形外科、小児科、循環器内科、呼吸器内科、がん診療科、耳鼻咽喉科などの各症例検討会に参加し、リハビリテーション治療における幅広い見識を得る。

●方略

<病棟業務>

- ・ 理学療法士、作業療法士、言語療法士らとともにリハビリテーション診療を学び、チーム医療の一員として行動実践する能力を取得する。
- ・ リハビリテーション科に関連する各診療科病棟を中心に、常時数名程度のリハビリテーションを要する患者を指導医、上級医と共に担当する。
- ・ 担当患者の問診および身体所見をとり、指導医、上級医とともに検査計画、治療計画を立てる。
- ・ 担当患者の血液検査（採血等）、画像検査（エコー、CT、MRI およびその鎮静）、腰椎穿刺、電気生理学的検査、超音波検査、導尿といった各種検査にできるだけ付き添う。

- ・ 指導医、上級医とともに必要な生活指導を入院患者およびその保護者に行い、診療内容・説明内容をカルテに記載する。
- ・ 担当患者に関わる書類(他院への診療情報提供書、入院証明書など)の作製を経験する。

<外来業務>

- ・ 理学療法士、作業療法士、言語療法士らとともにリハビリテーション診療を学び、チーム医療の一員として行動実践する能力を取得する。

<コンサルテーション>

- ・ 他の診療科からのコンサルテーションに対して、指導医、上級医とともに対応する。
- ・ 担当患者が他科受診する際には、指導医、上級医の指導のもとで院内紹介状を記載する。

<カンファレンス>

- ・ 毎朝の整形外科始業時カンファレンスに参加する。
- ・ リハビリテーション科に関連する各診療科カンファレンスに参加する。
- ・ 入院担当患者の退院前カンファレンスや他職種カンファレンスにも参加する。

<研究会、学会、学術活動>

- ・ 研究会、学会に指導医とともに参加し必要に応じて発表する。

<週間スケジュール>

月	火	水	木	金
病棟研修	病棟研修	病棟研修	病棟研修	病棟研修
外来研修	外来研修	外来研修	外来研修	外来研修
13:30～	14:00～	16:00～	13:30～	13:30～
緩和ケア C.C.	脳外科 C.C.	脳内科 C.C.	耳鼻科 C.C.	NST 回診
			15:00～	15:00～
			整形外科総回診	心不全 C.C.
			15:30～	16:00～
			排尿ケア回診	褥瘡回診

●評価

- ・ 病院として定めた評価方法にて評価を行う。
- ・ 評価者は、指導医、指導者が行う。
- ・ 研修医からの評価も必ず施行する。